

●制作

時のいとま

—市ヶ谷駅周辺のお濠端におけるランドスケープの再編—

稲垣 宗一郎

園芸学部 緑地環境学科 環境造園学プログラム (主指導教員:武田 史朗)

SOICHIRO Inagaki

1. 背景と目的

「外濠」はかつて江戸城の外側の堀として、水路で江戸城を取り囲み水運の要としても機能していた。しかし、戦後に瓦礫処理のために埋め立てが進行し、1948 年に丸の内一丁目から八重洲橋、呉服橋一帯の外濠川と竜閑川の埋め立てを決定してからしばしば埋め立てが続いた。こうして江戸城外郭の名残は、現存する牛込濠から市谷濠と弁慶濠を残してすっかり失われることとなり、江戸期以来親しまれてきた外堀をめぐる景観も失われることとなった。—1) よりしかし、現在では都市景観の一つとして保存していこうとする考えが一般であり、緑地、水辺、史跡的価値を含む貴重な都市空間としてその姿を一部残している。

2024 年現在東京は、グローバルシティのひとつとして世界中の人びとから注目される存在となっている。しかしその真の力は経済力や高層ビルの数だけで推し量られるものではなく、歴史、文化、自然を含めた都市としての総合力であるとする。都市への人口集中やヒートアイランド現象といった都市問題への対応も、余儀なくされている。このような状況の中で、外濠周辺の環境は都心におけるオープンスペースとしての可能性を大いに秘めていると考える。そのため、本研究を外濠周辺における今後の都市空間としての在るべき姿を提示する設計提案として位置付けたいと考えた。

以上より、本研究は外濠周辺を中心とした都市空間において、現存する歴史的価値及び、貴重な緑地環境の魅力を活かした新たなオープンスペースを提案することを目的とする。

2. 対象地

対象地は東京都千代田区五番町の市ヶ谷駅及び、市ヶ谷濠、新見附濠周辺とする。対象とした外濠は新宿区と千代田区の区境に位置しており、まさに都心といえる。また市ヶ谷駅周辺には、多くの学校、会社があり、JR 線や東京メトロ、外濠通りが通っているため日々多くの人びとが行き交っている。都心として周囲の開発が進んでいるが、石垣と外濠が今なお残っており、現在と過去が共存する史跡的価値の高い空間である。また、水面や外濠公園の存在によって都市の貴重な緑地空間としての役割も果たす。

3. 方法

まず、現存する外濠の水面と、その周辺環境について調査

した。市ヶ谷濠、新見附濠に対象地を決定した後に現地調査を行い、現況の分析と外濠に対する人びとの意識を既往研究から抽出してまとめた。それを踏まえた上で、史跡の魅力を活用した都市緑地空間の設計を提案する。

4. 調査と考察

犬塚ら (2011) による、外濠を日々利用する人びとの認知度と価値基準についてまとめた。その結果、水面、桜、石垣、散歩道といった誰にでもわかりやすい要素は認知度が高い。また、認知していた人が何に評価基準をおいているかに関しては、遺贈価値、存在価値、生態系価値、歴史的価値といった非利用価値の評価が高く、外濠の利用価値に関しては直接、間接ともに低く評価されている。また、各地区での外濠の利用頻度で見ると、おおむね利用頻度に応じて評価が高くなるという。

続いて、対象地と周辺の環境に関する現地調査を 2023 年 9 月 9 日～2023 年 11 月 9 日まで 3 回現地を訪れて実施し、以下のことが明らかとなった。

場所	現況写真	説明
外濠公園からの外濠の眺め		外濠の景観を見るための視点が限られている。
外濠公園		外濠公園は木々が鬱蒼としているだけでなく電灯がないため薄暗い。
市ヶ谷橋からの新見附濠の眺め		都会らしいビル群の景観が、水管橋によって遮られている。
新宿区側から見た市ヶ谷駅及び石垣の眺め		石垣は見える角度が絞られている。

市ヶ谷駅周辺は、交通インフラが発達していることに加え、視点場の無さから石垣や水面といった文化的魅力は現在隠れてしまっている。同様にして、ビル群や、喧騒の間に顔を覗かせる緑地と水面の織りなす景観も活かせずにいる。実際現地では、外濠公園を散歩、ウォーキングしている人が目立ち、外濠を主に利用する人が外濠を高く評価するという結果上、外濠の直接的な利用を促進することができれば、利用者の外濠に対する価値評価を上げることができる。評価を上げられれば都市としての評価も上がり、周辺の人々にとって利用しなくなる空間になると予想できる。

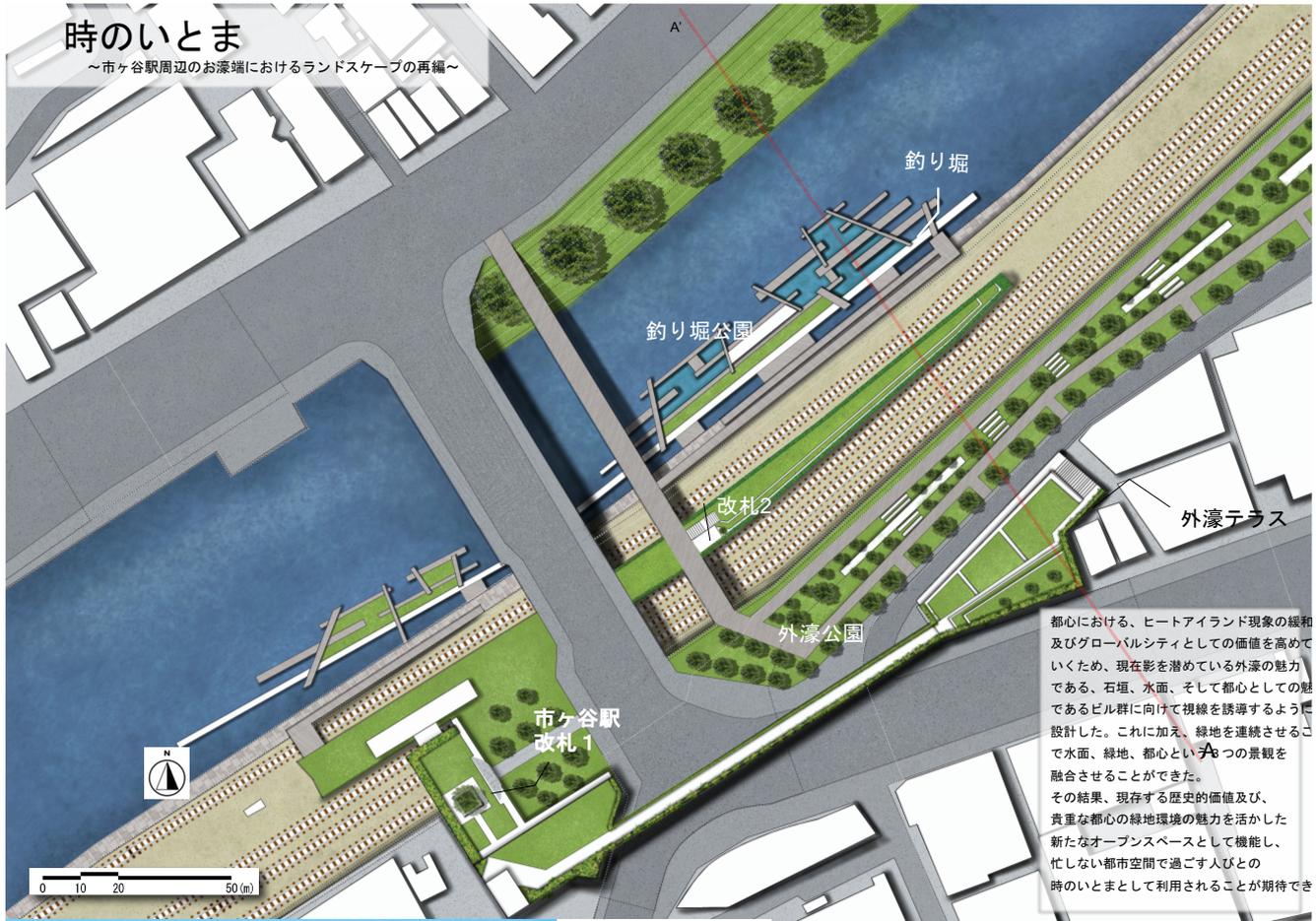
これらのことから、都市空間としての価値を高めるためには、外濠の魅力を最大限に活かす設計が効果的だと考えた。

引用文献

- 1) 千代田区ホームページ
- 2) 大塚佳臣、麻永隆、栗栖聖、窪田亜矢、中谷卓、花木啓裕 (2011) 空間構成要素と市民の特性に着目した江戸城外濠の価値選好評価
- 3) 国土技術政策総合研究所、第 1 章 これからの都市に求められる緑地の役割
- 4) 陣内秀信 (2012) 外濠：江戸東京の水回廊

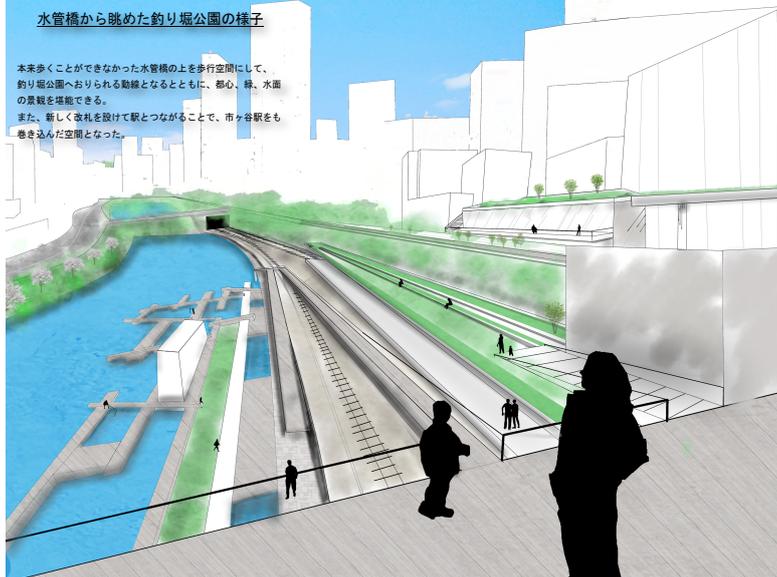
時のいとま

～市ヶ谷駅周辺のお濠端におけるランドスケープの再編～



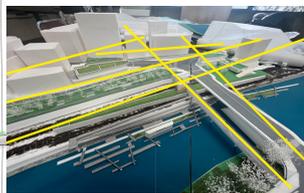
水管橋から眺めた釣堀公園の様子

本来歩くことができなかった水管橋の上を歩行空間にして、釣堀公園へおられる動線となるとともに、都心、緑、水面の景観を堪能できる。また、新しく改札を設けて駅とつながることで、市ヶ谷駅をも巻き込んだ空間となった。

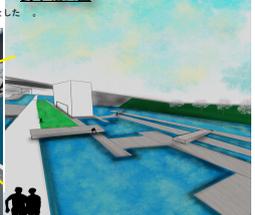


デザインコンセプト

過去と現在の時間軸を直線に見た、さまざまな直線が変わるようなデザインとした。



釣堀公園



新しい市ヶ谷駅

外濠公園から連続する緑地空間になるようにデザインし、市ヶ谷駅もいとまをテーマとしたこのオープンスペースの空間の一部として活躍し、より多くの人が利用できるようにした。駅から、下の層へおられることで、より簡単に水面や石垣へアプローチできる。従来のまわって、1F、2F、3F 全て公園的に利用でき、各々の場所でのいとまを過ごせる。下の層へのルートもあり釣堀公園へのアクセスも確保している。

